

国内における新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、第5波を経て昨年末までの2~3か月ほどは穏やかとなりましたが、年が明けてから若年層を中心に急増し、1月下旬頃より高齢者層、そして小児へと感染の広がりを見せています。ウイルスの多くはオミクロン株となり、軽症に経過することが多いものの感染の広がりは著しく、「生命的予後」だけではなく「社会機能の維持」に大きな問題が現れ、さらに小児での流行拡大は子どもたちの発育・教育・家庭生活に大きな影響を及ぼしています。主に大人の病気だったCOVID-19も、子どもたちの病気としての視点でも見ていく必要があると思います。本号では「新型コロナウイルス感染症禍における小児医療状況の変化」(オピニオン)・「公社病院における新型コロナウイルス感染症重点病院化への経験——小児科での対応について」(経験)、そして特集の中の「感染症」にはCOVID-19の新たな治療法についてご寄稿をいただきました。

本号の特集は「ここまで進歩した生物学的製剤と分子標的薬」として、解析技術の進展によって分子レベルでの病態把握が可能になった結果、これまでステロイド剤や免疫抑制剤等に頼らざるを得なかった免疫関連疾患に対する分子標的薬や、続々と開発導入が進められているモノクローナル抗体薬など、新たな治療法の進歩について触れることができ

ます。対象の多くは希少疾患で、小児になるとさらに症例数は少なくなりなかなか治験などがまとまりにくいところがありますが、国際共同治験の在り方などにも触れられている記述もみられます。なお国内でも、海外で承認が得られた治療薬について、臨床のニーズから早期に検討を加えて承認しようとする厚生労働省「医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議」なども設置され、学会などからの要望に基づいて早期ライセンス取得を目指す方策などもとられるようになってきています。

その他には、綜説として「血球テロメア長測定」・「完全型アンドロゲン不応症」・「小児の鎮静におけるカプノグラフィによるモニタリング」(文章の書き方の面白さにも惹かれました)、「海外在留児のてんかんの現状と課題」(診療)、「好中球減少に合併した肛門周囲膿瘍例」(目で見える小児科)など、小児医療の知識として興味深い論文を掲載することができました。また日本医大小児科学教室からは、栄養・代謝・内分泌分野に関する外国論文の紹介をいただいています。

COVID-19の予防・診療・対策などご多忙のところと思いますが、どうぞ本誌2月号にも目をお通しください

(岡部 信彦)

編集：伊藤保彦・中西敏雄・岡部信彦・清水直樹・高橋孝雄 (ABC 順)

小児科

第63巻 第2号 2月号

2022年2月1日発行 (毎月1回1日発行)

定価 3,080 円 (本体 2,800 円 + 税 10%)

年間購読料金

定価 47,630 円 (本体 43,300 円 + 税 10%)

[年間13冊 (増刊号、増大号を含む) の誌代]

[年間予約購読者に限り送料無料]

※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

Tel 03(3811)7165 [雑誌部直通]

Tel 03(3811)7184 [営業部直通]

Fax 03(3813)0288

www.kanehara-shuppan.co.jp

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03(3637)0005

広告申込先 福田商店 Tel 06(6941)5600

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権 (送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構 (TEL: 03-5244-5088, FAX: 03-5244-5089, E-mail: info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。